

# 心の輪12R

『松井秀喜-5打席連続敬遠-』という資料を通して、「正々堂々とは？」について考えました！



みんなに認められるような答えや正しさは、絶対ないのではないかと思った。今回の話のように認められたプレーでも非難を浴びるような例もあった。なので、『本当の正しさ』とは何か、もう一度考え直してみたいと思った。

私は初め、賛成意見だったけど、反対意見の「正々堂々と戦うから達成感がある」という意見にも納得した。しかし、『正々堂々』とは、自分たちのできることを互いにぶつけ合うということなので、松井選手に対しての『敬遠』は、自分たちができる最大のことだと思えば、正しい行動だと思う。

賛成の意見で「ルール違反ではない」という意見は、とてもいいと思います。けれど、私はこのような作戦は卑怯だし、楽しくないと思います。正々堂々は、「やって良かった」「楽しかった」と思えて、後悔しないことを言うと思います。

「明德義塾の投手が卑怯だ」とか、「正々堂々勝負しろ」とか言っているけど、ルール違反でもなく、ルール上あっているし、ルールは認められた方法であり、それをどうこう言うのはおかしいと思った。



## saying この人のひと言

貴方の心が正しいと感じることを行いなさい。  
行えば非難されるだろうが、行わなければ、やはり非難されるのだから。

**(アメリカ合衆国第 32 代大統領夫人  
エレノア・ルーズベルト)**

『正々堂々』は、真剣勝負で、ルールの中でやって良かったと思えるような試合になることだと思う。僕は賛成だったけど、松井選手の立場からすれば反対で、なかなか決めることができないと思った。

私は、正々堂々と真剣に戦って欲しいと思った。ただ、敬遠しても楽しくないと思った。本気でやるからこそ楽しくて感動の試合ができるのに、そんなことをしても、ただ負けるのを恐れているだけだと思う。私はこの話を聞いて、正々堂々と格好良く試合して欲しいと思った。こんなのを見ても楽しくない。

どんなときでも正々堂々と戦っていて、どちらの意見でも試合としてはありだから、それを否定することではないと思った。

今回の話は、人によって違い、難しい話だということが分かりました。『正々堂々戦う』ということは、お互いの作戦などを認め合うことだと、私は思いました。